

「美瑛町人口ビジョン」「第2期美瑛町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に
対してお寄せいただいた御意見と美瑛町の考え方

- 募集期間：令和2年2月1日（土）から令和2年3月1日（日）まで
- 意見提出者：3名（個人3名）

「美瑛町人口ビジョン」「第2期美瑛町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に対する御意見について公表します。御意見は基本的に原文どおり掲載させていただきますが、一部読みやすくするためや、個人情報保護の観点などから修正・割愛等をさせていただいております。

○御意見と町の考え方

- ①「美瑛町人口ビジョン」「第2期美瑛町まち・ひと・しごと創生総合戦略」について

御意見	<p>新型コロナウイルス対応は、いま「オリンピック開催」も危ぶまれる非常事態と言える状況を迎えており、かつ何とか事態をうまく切り抜けられたとしても、国家施策としての「第2期まち・ひと・しごと創生基本方針」自体無意味になるほどに、国の姿が一変するような結果も推測されます。</p> <p>従って、私は当該「第2期美瑛町まち・ひと・しごと創生総合戦略」へのコメントはいたしません。総合戦略とは別に<u>今美瑛町が求められている「地域福祉計画」の改定（地域共生社会の構築）も合わせて、まちぐるみで総合的に検討する体制を構築することを求めます。</u>⁽¹⁾</p> <p>（厚労省通達）</p> <p>「地域福祉計画」は、地域福祉推進の主体である地域住民等の参加を得て、地域生活課題を明らかにするとともに、その解決のために必要となる施策の内容や量、体制等について、庁内関係部局はもとより、多様な関係機関や専門職も含めて協議の上、目標を設定し、計画的に整備していくことを内容とするものです。</p> <p>なお、これに関しては、別途「社会福祉協議会」及び「民生・児童委員協議会」も各機関から「地域共生社会の構築」に取り組むよう求められています。</p> <p>上記のとおり「町民コメント」いたしますが、当該「第2期総合戦略」(案)が町民コメントにより使用に耐えられるものに作り直すことが出来るとは</p>
-----	---

思いませんので、ここに補足説明させていただきます。

「人口ビジョン」とは、本町が目指すべきまちづくりの方向 — この「総合戦略」における基本方向 — すなわち『誰もが住みたい「丘のまちびえい」の創造』を実現するために、必要となる人口の目標を定めることです。「戦略」とは一言で言えば、敵に勝つための方法、またある目的を達成するための方法です。従って、「人口ビジョン」を作るためには、まず実現すべき（目標とすべき）「丘のまちびえい」の姿が、明確にしめされなければなりません。

その観点から、当該「美瑛町人口ビジョン（案）」を採点すると、不合格というより0（零）点です。「美瑛町人口ビジョン」の改定についてというけれども、そもそも改定すべき元になるビジョンそのものが、この（案）の中のどこにも存在しません（まず、現況分析を行い、そこに5年間における総合戦略展開の成果の分析を反映させて、課題洗い出しを行う、課題解決のための戦略戦術を考えて新しい姿を描き出すという手順で進めることが肝要ですが、現況分析するための元になるビジョン『誰もが住みたい「丘のまちびえい」の姿』がない）。この（案）の内容は、改定ではなく新規作成です。

逆に、（人口ビジョンによる分析を基礎資料としながら）「美瑛町総合戦略」を改定すると言っているが、「総合戦略」は改定ではなく、第1期総合戦略は満了するのですから、今後5年間のまちづくり戦略の新たなる（第2期の）策定です。むしろ美瑛町としては、今回の総合戦略策定自体が、第1期と言っているいいかもしれません。何しろ、5年前策定の総合戦略は、求められた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の要件を欠いた「人口ビジョン」なしの計画、補助金目的の絵に描いた餅ですから。⁽²⁾ 5年前、「人口ビジョン」の考え方について2件の町民コメント（必要とする人口の元になるべき「まちづくりの姿」がないと指摘）がありましたが、全く無視されました。目的（ビジョン）なき航海には、戦略は必要ありません。戦略を作ること自体が無意味であり、無駄な作業です。前回の総合戦略策定作業は、国の補助金使用とは言え、1千万円もの無駄遣いでした。何故また同じことが繰り返されるのでしょうか。

実はこれは美瑛町だけではないのです。国全体の問題なのです。

国の「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」の4つの基本目標

- ◇稼ぐ地域を作るとともに、安心して働けるようにする
- ◇地方とのつながりを築き、地方への新しい人の流れを作る
- ◇結婚・出産・子育ての希望をかなえる

◇人が集う、安心して暮らすことが出来る魅力的な地域を作る
は、表現の違いはあるが、第1期の目標と全く同じです。第1期の総合戦略は全く成果がなかったということです。むしろマイナスだったでしょう。「地方創生」は、本来「東京一極集中是正」のために、安倍内閣が国家の存亡をかけてやっていることです。東京は人間が住むための都市居住空間としては、世界で最も危険な都市と言われています。東京が破綻したら日本が消滅します。にもかかわらず、「東京一極集中」が止まりませんでした。そもそも、「地方創生」は「限界集落消滅」・「消滅自治体」として地方の問題であるような施策になったこともあって、危機の迫る東京が動かなかつた（いや、オリンピック開催を抱えて動けなかつた、東京に手を付けられなかつたということでしょう）のが第1期戦略失敗の要因です。第2期も同じ構図で始まろうとしています。ここで発生した「新型コロナウイルス問題」はオリンピック中止という危機にまでなっていました。オリンピックが何とか予定通り出来たとしても、新型コロナウイルス対策自体が日本経済破綻（財政破綻・株式市場崩壊）ひいては国家破綻を招きかねない状況です。もちろん国がどういう状況になっても、美瑛町民の生活が終わるわけではありません。今こそ、美瑛町民の生活を守る、町民自身の手による自立出来る「地方創生まちづくり」が必要なのです。

そもそも何故、東京は兎も角、地方に於いても成功しなかつたのでしょうか。基本目標の中で、「する」「作る」「かなえる」と言われる言葉が使われていますが、この目標における主体は誰でしょうか。文脈からして「国家」ですよね。国がやってやるから「補助金をだすからやりなさい」という地方自治体への命令ですよね。押し付けです。「地方創生まちづくり」を実践するのは住民（国民）です。押し付けられても、国民（市民、町民）は必要を感じなければ動きません。

しかも自分達に関係あることならまだしも、関係のない人達を受け入れるためにまちづくりをやりなさいと言われても、誰もやりません。元々住民（国民）は、国（行政）の世話にならず、自立して生活しているし、国（行政）に食べさせてもらっているわけではないのですから。いくらお人よし（でもお役人と同等の能力はありますよ）の日本人でも、国の命令に従って仕事をするのはお役人（公務員）だけです。町民が「主役」というのはこのことなんです。「地方創生事業」は、どこの市町村も住民がやらないので、やむを得ず「行政」が実践までやっているのが実態です。「やってやる」だから、うまくいくはずがないのです。

そして、町民が「主役」について、大事なことが認識されていません。「地方公共団体は、住民の福祉の増進を図ることを基本とする」（地方自治法第

	<p>1条の2)「市町村は、その事務を処理するに当たっては、議会の議決を経てその地域における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための基本構想を定め、これに即して行うようにしなければならない」(地方自治法第2条第4項)「住民の福祉の増進」というのは、住民がより良い生活が出来るように基盤を作る、その手助けをするということです。予算案の策定は、町議会ではなく、行政執行機関の役割です。予算案には、町民の意思が反映されていなければなりません。議会の議決を経た「基本構想」がないからです。もちろん、「基本構想」の中には、「目指すべきまちの姿」もなければなりません。美瑛のまちづくり(「人口ビジョン」、「地方創生総合戦略」も含めて)は、ここから(原点から)スタートしなければならないのです。</p>
<p>町の考え方</p>	<p>(1) 御意見の内容につきましては、関係課と共有させていただきます。</p> <p>(2) 御意見のとおり「美瑛町人口ビジョン」は、本町における人口の推移及び現状の分析を通じて、人口の将来展望を提示するものであり、この将来展望を踏まえて、今後5か年の目標やまちの目指すべき方向及び具体的な施策をまとめたものが「第2期美瑛町まち・ひと・しごと創生総合戦略」となります。総合戦略の策定に当たっては、町の実情を分析し、課題を明確にした上で、これに対応する取り組みとその目標を関係者が共有することが重要であるため、企画委員会やまちづくり委員会等での検討、町議会による検討のほか、町民ワークショップの開催により幅広く意見を吸い上げ、多様な住民の参画を経て検討させていただきました。</p> <p>また、「美瑛町人口ビジョン」は、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」の改訂内容を勘案しつつ、各種統計を最新の数値に時点修正するとともに、現時点での美瑛町の将来展望を示すために改訂しております。「第2期美瑛町まち・ひと・しごと創生総合戦略」については、国や道の総合戦略を勘案し、地方創生の充実・強化に向け、切れ目無い取り組みを進めることが求められることから、現行の「美瑛町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を検証し策定を進めさせていただきました。</p>

②「美瑛町人口ビジョン」「第2期美瑛町まち・ひと・しごと創生総合戦略」について

御意見	<p>(1) 【全体】第一期に比べ、人口ビジョン・戦略ともに改善されたことを評価します。</p> <ul style="list-style-type: none">・人口減少がまちづくりの障害になること示し、しごととひとに焦点をあてた課題設定となっています。・全戸配布の概要版は、基本方向→4つの戦略→具体的施策→重点項目の大きな流れと項目の関連が見える化され、今後のワークショップなどで役立ちそうです。 <p>(2) 総合戦略【毎年度のP D C Aサイクルについて指摘】(P 9. 7__目標設定と効果検証)</p> <p>指標 (K P I、K G I) を評価する (C H E C K) だけでなく、効果のない小事業 (重点項目、K P I) を毎年仕分け (A C T I O N) すべきです。～本素案の修正は不要。</p> <ul style="list-style-type: none">・「K P I が達成すれば戦略の数値目標 (K G I) が達成する」ための前提は、「K P I がK G I に作用する」ことです。・よって、K P I の達成状況 (40%) に着目するだけでは不足です。K G I の未達が、K P I の未達によるのか、あるいはK P I 自体の効果によるのか見極めなければなりません。 <p>(3) 総合戦略【持続的なまちづくりについて指摘】(P 5. 2__美瑛町まちづくり総合計画との関係)</p> <p>2060年代に持続しているまちの姿と政策目標を描き、そこから逆算して求めた新たな長期戦略体系を創造すべきです。～本素案の修正は不要。</p> <ul style="list-style-type: none">・本素案も、財政や社会構造からくる制約や、農業や産業の構造的な問題と人口動態の関連について解明しきれていません。・「美瑛町まちづくり総合計画 (10年間) も、その根拠となる長期見通しをもっていません。 <p>(4) 人口ビジョンP 23、図表Ⅲ-2-2 税込・納税者の推計</p> <ul style="list-style-type: none">・縦軸目盛りラベルの (人) と (千円) が逆になっている。・ (千円) より (億円) のほうが一般にわかりやすい。
-----	---

	<p>(5) 人口ビジョンP27、図の下の注釈※</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口置換水準の注釈に対応する本文の記載がありません。
町の考え方	<p>(1) 御意見の内容につきましては、概ね町（素案）と同様の内容であり、同意いただいたものと考えております。</p> <p>(2) 御意見のとおり、総合戦略で設定した数値目標（KGI）や重要業績評価指標（KPI）を基に、PDCAサイクルに基づく施策・事業の効果検証の実践は、効果的な施策の推進に必要不可欠であり、必要に応じて総合戦略を改訂するとともに、継続したPDCAサイクルの確立と運用を図る必要があります。</p> <p>本町では、「住み良いまち美瑛をみんなでつくる条例」に基づいて、まちづくり評価（施策・事業の評価）を実施しておりますが、次年度以降、KPIを基にした評価手法を取り入れ、KPIの実績調査・効果検証を毎年実施する予定ですので、御意見いただいた内容についても検証していきたいと考えております。</p> <p>(3) 御意見のとおり、「美瑛町まちづくり総合計画」は本町が進むべき方向性と、それに向けて実施すべき施策を体系づけるもので、本町が策定するあらゆる構想や計画の最上位に位置づけられる計画であることから、総合戦略の内容は「美瑛町まちづくり総合計画」と相互に連動させて施策を展開する必要があります。</p> <p>現行の「美瑛町まちづくり総合計画」は令和2年度に中間年を終えるため、現町長が掲げる4本の柱を軸としたまちづくりの方向性と具体策を示した新たな総合計画の策定に向けて、次年度から作業を進めていく予定です。</p> <p>(4) 御意見のとおり、素案を修正させていただきます。</p> <p>(5) 御意見のとおり、人口置換水準に関する注釈を削除し、P18-III-1-(1)の最下部に同注釈を追加します。</p>

③「美瑛町人口ビジョン」「第2期美瑛町まち・ひと・しごと創生総合戦略」について

御意見	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少が確実に進むため、役場職員を減少させ、民間にできることは民間に頼むということを積極的に進めてほしい。 ・美瑛川や用水路を使った、再生エネルギーを都会に売り込むような形をとってほしい。北電の反対があると思うけど。 ・若い人口が逃げてしまうので、新しい産業、例えばデータセンター等の誘致（さくらインターネットでやっているような）ものを再生エネルギーと組み合わせて実行していく。 ・美瑛高校等の余っている教室を使い、関東圏等からのベンチャー企業の誘致を進めていく。本州が花粉症の時期や、夏の暑い時期に来てもらい、できれば本社機能を置いてもらう。 ・以前、相鉄線の二俣川駅で、イベントをしていて、私も見に行ったことがあったのですが、それを再開してほしいと考えております。二俣川駅は、現在、都心にも直通で行けるよう様変わりをしていますので、検討をお願いします。特に神奈川は羽田空港が近いし、町長が横浜出身なので期待しています。 ・芦別に抜ける国道の整備を早急をお願いしたい。そこができれば、札幌から美瑛に来る直通のバス路線ができるかもしれない ・十勝岳や、青い池、新星の丘等からの美瑛町のホームページのwebカメラで見ればいいなあと観光客からの要望が勤めていて、数件ありました。
町の考え方	<p>御意見の内容につきましては、関係課と共有させていただきます。なお、町民がまちづくりに参加する取り組みの一環として「町民まちづくり提案事業」を今年度から実施しており、次年度も実施する予定ですので、本町のまちづくりに対する御提案をお寄せください。</p>